

# 第52回日本臨床心理学会大会（東京大会）ご案内

## （第1報）

第52回大会実行委員長 山本勝美

8月19日（金）20日（土）に、明治大学駿河台校舎で、第52回本学会大会を開きます。第一日午後には、二つのワークショップを併行して行います。

一つは、「ジェンダーに基づく女性に対する暴力ー強かん・近親かん・屍かんー」と題して、堀口悦子さん（明治大学）が、女性に対する性暴力の問題を、女性の人権・尊厳を擁護する立場から、鋭く斬り込む問題提起をされます。そして、その発題をめぐって参加者一同でフリーな討論を行い、本来的な男女関係、社会状況のあり方を模索したいと思います。

もう一つは、「オープンダイアログの源を探る、その基礎を学ぶーリフレクティングはいかにできるか？ー」を滝野功久さん（京都橋大学）のコーディネートで行います。フィンランド生まれのオープンダイアログは、その刷新的な発想と驚くべき成果によって、家族療法家や地域医療に関わる人々に注目され、最近日本でも大きく話題にもなってきました。ナラティブ・アプローチの流れを超えるこの「開かれた対話」は、専門家にその兜を脱がせ、当事者のいる場とネットワークに沿いながら、なにをどう問うべきかを根っこから見直し考えさせてくれます。ここでは、基軸として使われているトム・アンデルセンのリフレクティング・プロセスをからだとことばを使って、探り考えていきたいと思います。

次に、第2日の午後には、旧優生保護法に規定されていた優生手術によって女性障害者が産むことを奪われてきたという事実に対して、今日では優生手術の被害者としてただ一人の方が、シンポジストとして発題されます。ご自分の産むこと、そして生きる人権を否定されたことに対して、国に謝罪を要求しています。優生保護法は、1992年に母体保護法に改定されましたが、でも産むことを奪われたからだそのものはもはや元に戻りません。

その叫びにこたえて、今日ようやく心ある弁護士のサポートがなされ、日本弁護士連合会に人権救済を申し立て、審議中です。

一方、今年の2月、ジュネーブの国連女性差別撤廃委員会（CEDAW）が、日本政府に対して、優生手術の被害者に対する謝罪と人権回復を指摘しました。これにうながされて、厚労大臣が国会で「ご本人からご要望があれば、職員がご本人からご事情を聞くということで、厚労省としても適切にしっかりと対応したい」と回答しています。

以上のように優生手術の基本的問題と今後の取り組みについて、シンポジウムとして、当事者、弁護士、市民の皆様にご出席頂き、話し合いを深めていきたいと思います。

なお、第2日午前に、個別研究発表の時間を設けましたので、ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

また遡って、第1日の夕方から2時間半にわたり、大会参加者の皆様には、楽しい交流会を予定していますので、ふるってご参加下さい。

## 第52回日本臨床心理学会大会（東京大会）

日時：2016年8月19日（金）～20日（土）

会場：明治大学駿河台キャンパス

東京都千代田区神田駿河台1-1

■JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／

御茶ノ水駅 下車徒歩約3分

■東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅

下車徒歩約5分

■都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線

神保町駅 下車徒歩約5分

参加費：会員/1,500円、

非会員/2,000円、

障害当事者・家族・学生等/1,000円

2日目のシンポジウムのみ/1,000円

懇親会/4,000円



### 大会日程

8月19日（金）	
午前	
午後	ワークショップ1 堀口 悦子（明治大学） 「ジェンダーに基づく女性に対する暴力ー強かん・近親かん・屍かんー」
	ワークショップ2 滝野 功久（京都橘大学） 「オープンダイアログの源を探る、その基礎を学ぶーリフレクティングはいかにできるか？ー」
夜	懇親会 於：café pensée（カフェパンセ） 明治大学アカデミーコモン1F
8月20日（土）	
午前：個別発表	
午後：シンポジウム 「優生手術をめぐる追求の中から私たち自身の優生思想を問う」 (シンポジスト) 新里 宏二さん（弁護士） 飯塚 淳子さん（被害当事者） 利光 恵子さん（優生手術に対する謝罪を求める会／立命館大学生存学研究センター客員研究員） 藤原 久美子さん（DPI女性障害者ネットワーク）	